

NZワイナリー日記

木村滋久の

第5回「ワイン造りの第一歩、冬の剪定」



KIMURA

CELLARS

ワイン造りの第一歩

日本とは季節が反対の南半球に位置するニュージーランド（以下NZ）は、現在日本とは正反対の季節を迎えています。私が住むマールポロ地区では、周りに見える山々が雪に覆われているほどの厳しい寒さ。そんなか、私と妻を含めブドウ農家たちは、冬の間何カ月も畑でブドウの選定仕事を行ないます。「美味しいワインは良いブドウから」と言われますが、冬の剪定は高品質なブドウを育てるための最初の一步として、とても重きを置かれている仕事の一つです。かなりの重労働となるため「年間で最も人件費のかかる栽培仕事」とも言われています。そんなこともあり、冬になると『剪定コンクール』というものがあるが毎年行なわれ、現地の農家たちだけでなく、海外から来た栽培者たちもその技術を競い合います。

剪定仕事の重要性

冬の剪定仕事はなぜそんなに重要なのでしょうか？

剪定でいくつの芽を一本のブドウの木に残すかにより、その木から何個のブドウが作付けされるかが左右されます。つまりブドウ農家やワイナリーにとっては、一年に見込める収入を決定づける大切な仕事なのです。一本の木に多く実をつけ過ぎると、高品質なブドウがなりづらい。かといって、単に収量を減らせば良いというわけでもありません。美味しいワインを造るためには収量のバランスが非常に重要な要素となりま

す。加えてその畑の気候や土壌、そこで育つ品種やクローン、その樹齢などにより、ブドウの木が発揮できる能力はさまざまです。栽培者は、それらの条件を幅広い角度から理解しながら、同じ畑であっても異なる個性を有する木々に向かい合う。剪定仕事はとても奥が深いのです。

畑での作業

ブドウ栽培学の知識の必要性とは裏腹に、霜が降りる寒さの冬のブドウ畑では、何層にもおよぶ上着とズボン、そしてニット帽と防寒靴が必須の装備です。そんな条件下で行なわれる剪定作業は、危険が伴う仕事でもあり、多くのワイナリーで目を守るためのメガネの装着が義務付けられています。かく言う私も、切った木を取り除く作業中、数か所の切り傷を顔に負ってしまいましたが、傷を見た知人からは「夫婦喧嘩でもしたのか!？」と冗談を言われています（笑）。

他にもこの時期は、乾燥から指先に幾つものひび割れを繰り返します。そんな痛みを乗り越えながら、妻も私も一本一本の木に「美味しいワインになるんだぞ!」と思いを込めて、日々畑仕事にいそしんでいます。

